

追悼の辞

本日ここ、カリラヤの「比島戦没者の碑」前において、駐フィリピン日本国遠藤和也大使主催による、日本人戦没者慰霊祭が執り行われるにあたり、フィリピンの地に眠られるご英霊に対し、日本遺族会を代表して謹んで追悼の言葉を申しあげます。

皆様方は郷土に、そして肉親に断ちがたい思いを残し、ひたすら日本の安泰と繁栄を念じつつ、五十一万八千余の皆様がフィリピンの地において散華されてから、早くも八十年の歳月が流れました。

先の大戦は多くの軍人、軍属の命を奪ったばかりでなく、現地住民の方々にも多大な犠牲を強いることになり、誠に痛恨の極みであり、今も悲しみを新たにいたします。

私たち戦没者遺族にとって、戦後の波風はまことに厳しいものがありました。しかしながら私たちは、皆様方が後を頼むと遺された言葉を思い起こし、皆様方の尊い犠牲を決して無駄にしてはならないと固く心に誓い、遺された者同志で、互いに扶けあつて悲しみに耐え、戦後の廃墟と混乱の中を共に歯を食いしばって、あらゆる困難を乗り越えて生き抜き、家庭を守り郷土を再建する決意をいたしました。そして今日まで平和国家の建設と幸せな家庭づくりのため努力してまいりました。

今や、わが国は、平和のうちに繁栄をとげ、福祉国家をめざして発展しております。これも偏にご英霊の皆様方のご加護によるものと、私達はいうに及ばず、国民ひとしく感謝の念を捧げているところであります。

一方、世界に目を向ければ、ロシアによるウクライナ侵攻や、パレスチナとイスラエルによる紛争、ミャンマーでの内戦等争い^{いさか}が止まず、無辜の命が失われている状況にあります。このような時だからこそ、改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さを深く心に刻み、戦没者遺族だからこそ語ることができる記憶を、次世代へ伝承して行かなければなりません。それが、戦没者遺族の責務として、微力ではありますが、世界の平和が訪れるよう努力してまいりますことをお誓いいたします。

結びに、本日の慰霊祭が平和を考える大きな機会となり、長く多くの皆様に語り継がれ、皆様の心に、恒久平和な社会の実現へ向けた願いが広がることを祈念し、追悼のことばといたします。

ご英霊の皆様、どうか安らかにお眠り下さい。

令和七年八月十五日

一般財団法人 日本遺族会

会長 水落 敏 栄